

# 宮崎善仁会病院 リウマチセンターニュース

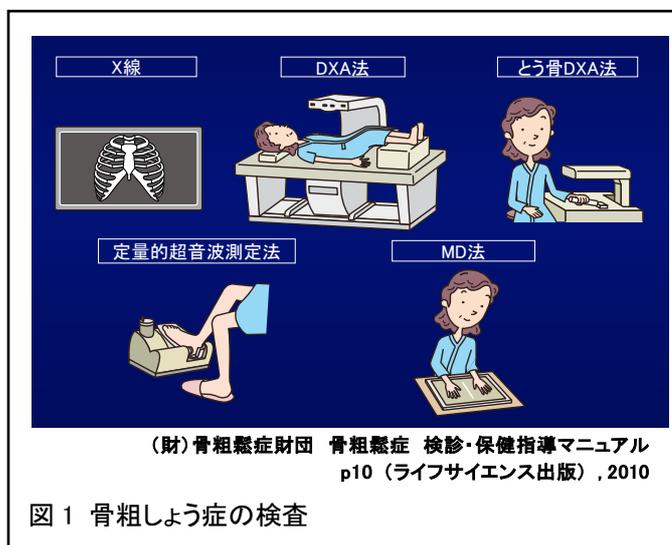
第18号(2023年9月号 [2023/9/10 発行])

朝夕はやや涼しくなってきたものの、厳しい残暑が続いております。皆様、体調はいかがでしょう？夏の疲れが残っていませんか？バランス良い食事と十分な睡眠で体調を整えて下さい。さて、前号では、骨粗しょう症の概念などにつきましてお話しさせて頂きました。本号では、骨粗しょう症の診断につきましてお話しさせて頂きたいと思っております。

## 骨粗しょう症の検査

前号でもお話しさせて頂いたように、骨粗しょう症とは骨の強さが低下して、骨折を起こしやすくなった状態をいいます。では、骨粗しょう症を診断するには、どのような検査を行うのでしょうか？まず、単純X線検査で骨折がないかどうかを確認します。とくに背骨（胸椎や腰椎など）は、知らない間に骨折を起こして、しかも症状が出ない方もいらっしゃいます（「いつの間にか骨折」）。更に器械を使用して骨の密度（骨密度）を測定し、骨粗しょう症があるかどうかを判断することができます（図1）。骨密度を測定する簡易的な方法として「橈（とう）骨DXA法」「定量的超音波測定法」「MD法」などがありますが、この方法では手や足の骨の密度を測定するため、手や足の骨が薄くなる関節リウマチでは正確に測定できない可能性があり、この部分では改善効果が分かりにくいいため、骨粗しょう症の治療薬による改善の変化をとらえにくいという欠点があります。その一方、DXA法では腰椎や太ももの骨の股関節に近

い部分（大腿骨近位部）の骨密度を測定しますので、関節リウマチの患者さんでも正確に測定できますし、治療薬による改善変化をしっかりとらせることができます。ちなみに当院ではこの方法で検査を行っています。その他、骨代謝マーカーなどを知るための血液検査や尿検査も実施します。



## 骨粗しょう症の診断

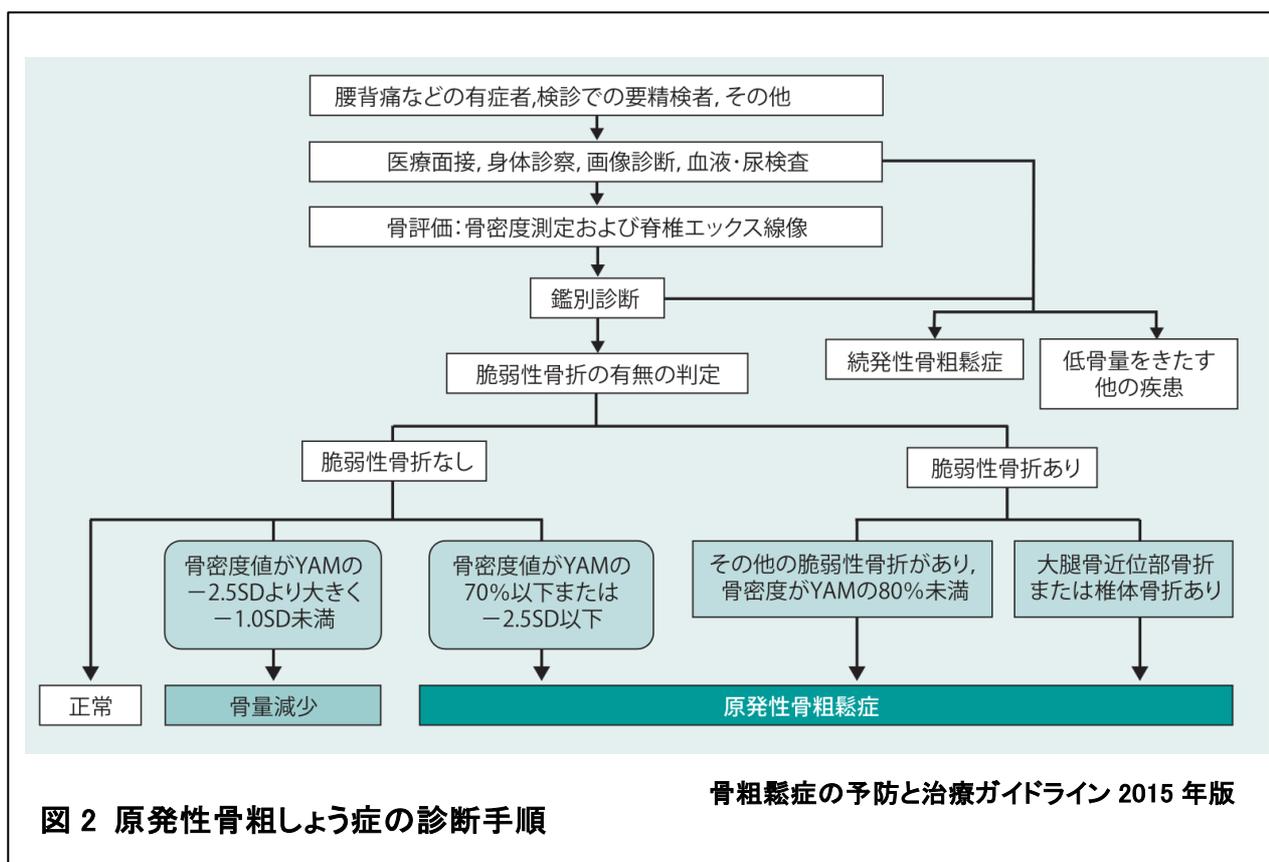
ここでは、原発性骨粗しょう症の診断について述べます。図2に原発性骨粗しょう症の診断の流れについて示します。なお「YAM」は若年成人(20~40歳)の平均骨量のことです。これを基準(100%)としています。具体的には、問診、診察、検査を行いながら他に骨粗しょう症を起こす原因や骨量が低くなる病気がないかどうかを調べます。例えば、ステロイド薬を飲んでいれば「ステロイド性骨粗鬆症」となり、診断や治療が異なってきます。そのような理由がなければ、次に脆弱性骨折(ぜいじゃくせいこっせつ)の有無を判定します。脆弱性骨折とは骨密度が「低骨量」(YAMの80%未

満) または脊椎の X 線検査で骨がすかすかになっていることが原因で、転倒などの軽い衝撃で起こった骨折をいいます。脆弱性骨折骨折の中で、胸椎・腰椎や大腿部に既に骨折がある場合は、それだけで「原発性骨粗しょう症」と診断できます。その他の部位の脆弱性骨折がある場合(例えば腕の骨折など)、「YAM」の 80%未満であれば、同様に「原発性骨粗しょう症」と診断します。脆弱性骨折がない場合は、YAM の 70%

以下の場合を「原発性骨粗しょう症」と診断します。

なお、前述の「ステロイド性骨粗鬆症」については、膠原病や関節リウマチの治療薬であるステロイド薬と関連し非常に重要で、診断も治療も異なりますので次回以降のセンターニュースで詳しく述べたいと思います。

(日高利彦)



リウマチセンターニュースのバックナンバーの必要な方は当院の職員に気軽にお尋ね下さい。なお、当院のホームページでもバックナンバーを確認出来ます。

([https://www.m-zenjin.or.jp/publicity\\_cat/publicity\\_1](https://www.m-zenjin.or.jp/publicity_cat/publicity_1))